

神戸市立博物館学芸員
塚原 晃 氏講演会

視覚化された「祈りの熱狂」
—神戸市立博物館所蔵《聖フランシスコ・ザビエル像》をめぐって—

2021年9月18日(土)13:00開始

Zoom開催

参加希望の方は9月15日(水)までに下記のフォームから回答をお願いいたします。

<https://forms.gle/BLmcfMTmFA4QvLwE6>



《聖フランシスコ・ザビエル像》
重要文化財
神戸市立博物館蔵

講演概要

アジア布教の金字塔を打ち立てた業績ばかりではなく、その人間的魅力と行動力、祈りへの熱狂的没入によって、フランシスコ・ザビエルは生前においてもヨーロッパとアジアで親愛と崇敬を一身に集める存在であった。さらに、死後に起きた超常現象がトリガーとなり、ザビエルへの崇敬が過熱し、1619年の列福・1622年の列聖を待たず、伝記が多言語出版され、彼が引き起こしたとされる奇跡を描く絵画作品も多数現れるに至った。

現在神戸市立博物館に所蔵されている「聖フランシスコ・ザビエル像」は、ほぼ1世紀前の大正9年(1920)に、現在の大阪府茨木市千提寺地区から発見された。潜伏キリシタンによって代々伝えられた本像は、その画面構成や表現技法などから17世紀前半の日本で描かれたと考えられる。ザビエル・カルトの図像が17世紀前期の西洋で多様に展開するなかで、その原初的な主題である「祈りへの熱狂的没入」を描くことは興味深い。また画面下部に「漁夫環人」の名のもとに記された「さからめんと」という和文は、この聖画の真の目的を示唆しているのかもしれない。

本発表では、ザビエル崇敬の世界的うねりを意識しつつ、本像を理解し直す試みを提示したい。

塚原 晃(つかはら あきら)氏略歴

神戸市立博物館学芸員

早稲田大学文学研究科史学美術史学科修了

2019年の同館のリニューアルで新設された「コレクション展示室・聖フランシスコ・ザビエル」の壁面・デジタル解説コンテンツを担当。関連する論著として「神戸市立博物館蔵『聖フランシスコ・ザビエル像』の保存状態と表現解釈」(『神戸市立博物館研究紀要』35、2019)



《十字架に祈るフランシスコ・ザビエル(?)と
スタニスラウス・コスカ》
ヒエロニムス・ヴィーリクス
アムステルダム国立美術館蔵